

授業科目

臨床化学II

担当教員名 久保野 勝男	対象学年	2	対象学科	臨床
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○		

授業の概要

病気の診断や予後の判定などの指標となる生体試料（主に血清）に含まれる成分を学び、それらの測定方法や臨床的意義を概説する。

授業の目的

- 1 病気の指標となる生体試料中に含まれる成分を理解する。
- 2 病気の指標となる成分の分析法を理解する。
- 3 病気の指標となる各種物質の臨床的意義を理解する。
- 4 臨床化学データと各種病態を理解する。

学習目標

- 1 臨床化学検査の対象となる血清中の成分を説明できる。
- 2 臨床化学検査の対象となる成分の分析法を説明できる。
- 3 検査値の臨床的意義を説明できる。
- 4 臨床化学データとその病態について説明できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	酵素活性測定と血中酵素の特性	講義	
2	酵素：アミノトランスフェラーゼ	講義	
3	酵素：乳酸脱水素酵素、クレアチンキナーゼ	講義	
4	酵素：アルカリフォスファターゼ、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ	講義	
5	酵素：コリンエステラーゼ、アミラーゼ	講義	
6	酵素：リパーゼ、酸性ホスファターゼ、他の酵素	講義	
7	骨代謝マーカー、ホルモン：下垂体ホルモン	講義	
8	ホルモン：甲状腺ホルモン、カルシウム調節ホルモン	講義	
9	ホルモン：副腎皮質・髄質ホルモン、性腺・胎盤系ホルモン	講義	
10	ホルモン：膵系ホルモン、消化器系ホルモン、ナトリウム利尿ペプチド	講義	
11	臨床化学と各種病態：肝・胆道・膵系	講義	
12	臨床化学と各種病態：呼吸器系、心・循環器系、腎代謝機能	講義	
13	臨床化学と各種病態：酸塩基平衡、内分泌系、栄養・代謝	講義	
14	臨床化学と各種病態：骨、腫瘍、毒物・薬物	講義	
15	臨床化学検査データの読み方	講義	

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	臨床化学検査学	浦山 修、奥村 伸生、戸塚 実 他	医歯薬出版株式会社	2016 年	5,600円+ 税	
参考書	異常値の出るメカニズム	河合 忠ほか	医学書院	2013 年	6,000円+ 税	
	臨床化学	前川 真人	医学書院	2012 年	4,500円+ 税	
その他の資料						

評価方法

病気の診断の指標となる成分とその分析法および臨床的意義についての理解度を15回の講義中に3回の小テストおよび期末試験で評価する。

履修上の留意点

疾病と検査値の関わりを学ぶので項目毎に異常値の出るメカニズムを予習して臨むこと。

オフィスアワー・連絡先

木曜日 3限・4限 F110号室 kubono@nuhw.ac.jp